

俳句

【小学1年生・2年生】

特選 かえりみちにしびにひかるぼくのほお

城北小学校2年 松浦 碧音

(評) 「西日」が俳句の季語だと知っていたことに感心しました。極暑の中、西日をあびながら元気に歩くようですが目に浮かびます。眩しいと言わないで、ほおが光ると表現した所に個性が見えます。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

特選 かまくらはみんなはいれるひみつきち

城東小学校2年 今田 侑亜

(評) かまくらは、秋田県横手地方のものが有名です。雪がたくさん降らなければ出来ないのですが、みんなで力を合わせて雪を集めてきて作ったのでしよう。秘密基地でどんな作戦をたてたのかな。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

特選 あきぞらにかいてみたいなくじらぐも

稲枝東小学校1年 二木 育海

(評) 雲ひとつない美しい青空をキャンバスにして、くじらとは、すごく楽しい発想です。想像は自由に広がりますので、いろいろな動物を、広い空に描いてみて下さい。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 とうげこうそつと見守るあきざくら

金城小学校2年 山本 真央

(評) あきざくらはコスモスのことです。コスモスとよむか、あきざくらとよむかにより、句の仕上りが変わってきます。この句は、あきざくらとよんだ事でおとなの感覚が表現され、中七の見守ると言う言葉が生きてきます。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 かぜがふきなのはなゆれるきれいだな

城陽小学校2年 林 柚季

(評) 毎年テレビで紹介される湖岸の菜の花が、思い浮かびます。風が吹いて菜の花畑に出た動きを、うまく句に出来ています。菜の花の明るい黄色が風に揺れるようすから、春を感じ取ることが出来ます。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 おにぎりをうんどろかいで5こたべた

亀山小学校2年 河野 光希

(評) 一読してわかる句です。運動会の昼食は、おにぎりが多いですね。何こ食べたと数を言ったことで、おなかが減っていたことや、おいしかったと言いうことがわかります。昼からもがんばる姿勢を想像することが出来ます。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 コスモスはかぜでダンスをおどってる

旭森小学校2年 北村 木春

(評) この句の良い所は、コスモスとダンスを合わせたことです。自分の見た事、感じた事を言葉にするのは、むつかしいことです。かろやかな風に揺れるコスモスを、上手に言いあらわしています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 さむい朝スープをのんで出かけよう

河瀬小学校2年 細川 渚

(評) これはまた現実的な句です。あったかいスープに身体がぬくもり、元気に
出かけていくようすがよくわかり、息の白さまで感じられます。この句のよ
うに日常の中から句を作る事も大切な事です。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 よういどんせんこうはなびたいけつだ

城西小学校1年 徳永 明李

(評) せんこう花火は、小さい子でも出来るので昔から人気があります。最後の
玉が落ちるまでのしょうぶですね。手を揺らさないように持っていた結果、
どちらにぐんばいが上がったのでしょうか。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 あかいろのはなびがどーんめがさめた

城南小学校1年 堀田 梨央

(評) 「めがさめた」がおもしろいです。次々とあがる花火を見るうち、眠気が
勝った所に「どーん」と、ひときわ大きな音で花火があがり、びつくりした
ようすが伝わってきます。

(彦根文芸協会 北川 栄子)



佳作 ハロウィンにかそういっぱいいたのしいな

佐和山小学校2年 平井 鈴菜

佳作 こおろぎがりんりりりんないている

城北小学校1年 廣瀬 由騎

佳作 みつけたようすばきとんぼぼうしのなか

鳥居本小学校1年 芦田 和輝

佳作 ねこじゃらしほおをなでるときもちいい

金城小学校1年 佐竹 香穂

佳作 あきのそらてんぼうだいほしみたよ

稲枝東小学校1年 山田 宗樹

佳作 かまきりがはたけのくさについていた

城陽小学校1年 元持 翔貴

俳句

佳作 コスモスがたてよこななめにおどってる

城北小学校1年 宮本

千結

佳作 こすもすはピンクやきいろきれいだね

旭森小学校2年 中島

莉菜

佳作 さつまいもコロッケにしておいしいな

旭森小学校2年 佐々木

仁

佳作 あかとんぼ夕日にむかってとんで行く

旭森小学校2年 浅井

満結

佳作 かきがすきあまくなってるおいしいな

旭森小学校2年 河嶋

来夢

佳作 スズムシのオーケストラだいいねいろ

城東小学校2年 青木

綾佑

佳作 コスモスがのほらいっぱいさいている

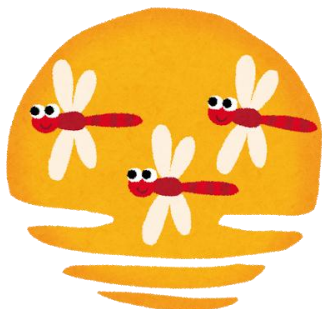
城東小学校2年 脇坂 草介

佳作 こうじん山ウオークラリーどんぐりだ

城東小学校2年 松末 ゆうじ ガブリエル

佳作 とんぼがねかぜにおされてとんでいく

城陽小学校2年 川崎 尋斗



俳句

入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	
あきのそらすつきりはれてきれいだな	みんなでねどんぐりひろいしたんだよ	もみじはねいろがかわるよあかいろに	どんぐりをりょうていっばいおみやげに	お月さまをみんなで見たらうさぎいた	にじのなかたいようひかるきれいだな	バッタがねあしがおれててかわいそう	くさはらでバッタいっばいとんでいた	おがわにねおおきいザリガニこわいなあ	ふゆがきたもうすぐわたしたんじょうび	いいにおいしゆんのさんまおいしいな
稲枝東小学校1年 小畑	旭森小学校1年 宮川	旭森小学校1年 大矢	旭森小学校1年 西谷	平田小学校2年 古川	城陽小学校2年 前川	城陽小学校2年 森	城陽小学校1年 草川	城陽小学校1年 川崎	城東小学校1年 高橋	稲枝東小学校1年 山田
智浩	杏弥	夢斗	来希	晴大	理桜	善悠	直輝	彩那	美夢	夏菜
入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選	入選
どんぐりがいっばいおちるもりのおく	みつばちがはなにとまってみつをすう	くさはらでバッタいっばいとんでいた	おがわにねおおきいザリガニこわいなあ	バラのはなカレーのにおいするんだな	ふゆがきたもうすぐわたしたんじょうび	くさはらでバッタいっばいとんでいた	おがわにねおおきいザリガニこわいなあ	おがわにねおおきいザリガニこわいなあ	ふゆがきたもうすぐわたしたんじょうび	いいにおいしゆんのさんまおいしいな
城陽小学校1年 北林	城陽小学校1年 寺村	城陽小学校1年 草川	城陽小学校1年 川崎	城陽小学校1年 日夏	城東小学校1年 高橋	城陽小学校1年 草川	城陽小学校1年 川崎	城陽小学校1年 川崎	城東小学校1年 高橋	稲枝東小学校1年 山田
愛莉	海南	直輝	彩那	鳳壽	美夢	直輝	彩那	彩那	美夢	夏菜

俳句

入選 さんまはねやいてたべるとおいしいな
旭森小学校2年 堀内 咲希

入選 コスモスがかぜにゆられてうれしそう
旭森小学校2年 峯岸 耀美

入選 あかとんぼゆうひのそらにとんでいる
旭森小学校2年 松井 和奏

入選 あかとんぼ二ひきでとんでかわいいな
旭森小学校2年 塚田 光結

入選 ねこじゃらしふわわしてこそばいな
旭森小学校2年 柿内 大空

入選 どんぐりをふくろいっぱいひろったよ
金城小学校2年 山田 結羽衣

入選 うんどう会まけてくやしいつぎはかつ
佐和山小学校2年 橋本 杏梨

入選 スケートですいすいすべってこけちゃった
佐和山小学校2年 山脇 和将

入選 はねひろげとんぼがとぶよかわのうえ
城南小学校2年 高橋 みのり

入選 どんぐりを山へひとりですりにいく
城北小学校2年 中川 陽裕

入選 きんもくせいおれんじいっぱいきれいだな
高宮小学校2年 古川 愛咲美



【小学3年生・4年生】

特選 いわし雲ほかの形も見えるかな

鳥居本小学校4年 武田 芽夢

(評) 空いっぱいはいわし雲を見ながら、ほかの形をさがしていると発想に、おもしろさが感じられます。小さいといわし、大きいとひつじ、それ以外に何か見つけられたら良いですね。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

特選 まがり角すずしい風が広がった

城北小学校4年 岡本 凜

(評) 角をまがったら風が広がったと言う表現に感心しました。まがり角を出ると景色もひらけるし、気持の良い風も吹いていたのでしょう。開放感と涼しさが伝わってきます。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

特選 あまがえるフェンスいろにへんしんだ

金城小学校3年 川原 結衣

(評) 雨蛙はふつう緑色ですが、保護色でまわりの色に変化したりします。フェンスは何色で雨蛙は何色になったのでしょうか。発見した事を上手にまとめられました。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 ぼくは今あきとたのしくあそんでる

城東小学校3年 高橋 聡直

(評) 青空の下、走りまわるのもよし、寝ころぶもよし、秋を全身で楽しんでいる感じがします。まるで秋は大切な友達だよと言っているようです。こういう表現もあるのだと感心しました。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 ハロウインはまじよやゾンビにかそうする

亀山小学校3年 長崎 遥海

(評) 何に仮装したのかをぐたいた言った所が、この句の良い所です。日本では仮装で知られています。10月31日にアメリカで行われる、諸聖人の祝日の前夜祭だそうです。いろいろな行事を句にするのも良いことです。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 おしろからみたこうようはきれいだな

城北小学校3年 及川 娃生

(評) 城山と呼ばれる小高い山に、彦根城は建っています。城山から見下ろす景色は美しく、紅葉の季節はなおさらすばらしいながめだったのでしよう。城と紅葉が上手に描かれています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 白い雲まつさおな空の夏ぼうし

稲枝東小学校4年 山田 萌夏

(評) 雲を帽子と見たことが、この句の一番のまどころです。青空に浮かぶ白い雲を見て、夏帽子まで想像した事に感心しました。すばらしい発想力です。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 秋の夜カシオペヤ座はきれいだね

鳥居本小学校4年 原 卓也

(評) 星座にはそれぞれ名前があり、カシオペアは、ギリシャ神話に出てくる女性の名前です。晩秋の夕暮に輝く星の美しさが納得できる気がします。名前を知って星を見ると感動もまたちがったものになる事でしょう。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 ひまわりはおひさまみてるまぶしそう

金城小学校3年 佐竹 由妃

(評) 太陽に向かって咲くと言われるひまわりです。「まぶしそう」と人間がおひさまをみているように感じた所に、この句の良さがあります。思ったことを上手に句にしています。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 もみじの葉こうじん山が赤くなる

城陽小学校3年 小川 光生

(評) 荒神山は、ウォークラリーのコースに入っていて、皆に親しまれています。その身近な山が紅葉で染まり、荒神山と名を入れたことにより、いっそう親しみを覚えさせてくれます。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 きれいだな秋の風景赤黄色

平田小学校4年 小島 一紗

(評) この句は場所を言わないで、ばくぜん景色の美しさだけを言って、成功しています。赤や黄色にいろどられた雑木の美しさが、目の前に広がるようです。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

準特選 もみじちる赤いじゅうたん広がるよ

平田小学校3年 伊吹 彩良

(評) 散紅葉の赤をじゅうたんに見たてた所が、すばらしいと思います。木立の紅葉も美しいのですが、散り敷いた紅葉にも格別の美しさがあります。紅葉が散るたびに広がる美しさ。

(彦根文芸協会 北川 栄子)

俳句

佳作	しんしんときれいなゆきがふりつもる	城東小学校3年	宮崎	百々羽
佳作	もみじがねほっぺのようにまっかだな	城北小学校3年	山内	陽太
佳作	きれいだないろとりどりのもみじの葉	旭森小学校4年	野口	藍
佳作	こうようはとおくでみてもきれいだよ	稲枝北小学校4年	西野	美織
佳作	ストーブのまえにすわってうごけない	亀山小学校4年	田中	彩音
佳作	彦根城紅葉がひらりとまい落ちる	城西小学校4年	小川	朋子
佳作	風がふくもみじのはっぱ風にのる	城西小学校4年	安田	仁一朗
佳作	もみじの葉赤ちゃんの手にているね	城陽小学校4年	岡田	純麗
佳作	流れ星夜空に流れる宝石だ	鳥居本小学校4年	中川	來慈
佳作	せをまるめこたつにならぶかぞくかな	旭森小学校3年	川村	こはる
佳作	秋の虫樂きのようなひびく声	旭森小学校3年	伊戸	優心
佳作	あしたはねお月見だんご作るんだ	城西小学校3年	守川	瑞希
佳作	空見たらひつじ雲がねいちめん	城東小学校3年	河分	小春
佳作	クリスマスなにがとどくか楽しみだ	城陽小学校3年	松井	歩夏

俳句

佳作 しん米はとりたての米できれいだな

城西小学校4年 磯貝 奏

佳作 かえりみちわたしにおちばついでくる

城陽小学校3年 北村 琉奈

佳作 まつしろなやねからゆきがおちてきた

平田小学校3年 益子 典也

佳作 ひがんばんな真つ赤にそまるじゅうたんだ

旭森小学校4年 七里 清夏

佳作 風の音すすきの波が押しよせる

稲枝北小学校4年 柴谷 茉佑

佳作 七輪で秋刀魚が焼けてうれしいな

城東小学校4年 田辺 普賢

入選 お正月いとことあえるうれしいな

城東小学校4年 北川 凜菜

入選 動物がじゅんぴをしてるとうみんの

城北小学校4年 伴海 優月

入選 いまはあきどくしよをしようなによもう

亀山小学校3年 田中 らん

入選 こうじん山あかのもみじがきれいだな

城東小学校3年 金子 陸

入選 うさぎさんもちつきしてる月の中

城南小学校3年 西堀 有咲

入選 夕食にあったかおでん大すきだ

城陽小学校3年 長谷川 斗輝也

俳句

入選 わいわいとひろいに来たよどんぐりを

高宮小学校3年 西村

和紗

入選 さつまいもそとはむらさき中黄色

鳥居本小学校3年 小幡

駿陽

入選 どうぶつはどうみんなよういもりのなか

平田小学校3年 北沢

咲登

入選 空見あげかがやく月がきれいだな

旭森小学校4年 西川

流星

入選 コスモスがーりん二りんとさいていく

稲枝北小学校4年 佐渡

優菜

入選 うれしいな一位がとれたようんどう会

稲枝北小学校4年 西村

滯莉

入選 きょうはね学校きゆうしよくでさんまでる

亀山小学校4年 長崎

大和

入選 むしの音が夜ぞらの星にとどくかな

城東小学校4年 北川

瑛太

入選 冬の夜おふろでゆっくりあたたまる

城南小学校4年 齋藤

亮太

入選 きれいな葉あれはなにかなもみじだよ

城北小学校4年 清水

宙

入選 運動会はしやぎすぎたらころんだよ

鳥居本小学校4年 市田

煌貴

入選 秋の夜の菜種の油あんどんだ

若葉小学校4年 内片

望

俳句

入選 かえりみちおちばひらひらまいおちる

旭森小学校3年 川村 玲奈

入選 スポーツはあせがいつぱいでるんだな

旭森小学校3年 山口 夏実

入選 かえりみちきれいなゆうひあきのそら

旭森小学校3年 田中 暖乃

入選 さかなつりアジがたくさんつれるよな

旭森小学校3年 榎 克樹

入選 たべものがすごくおいしいあきだから

城東小学校3年 北沢 茉結

入選 プールでのクロールやるぞがんばるぞ

城東小学校3年 中西 翔愛

入選 彦根じょうもみじがとてもキレイだね

若葉小学校3年 岡本 卓寛

入選 ひこねじょうまわりにもみじきれいだな

若葉小学校3年 吉田 文琉

入選 ともだちとさむさに負けずあそんだよ

旭森小学校4年 川邊 凜華

入選 色づいたもみじが私をよんでいる

城西小学校4年 水野 祈星

入選 ゆうぐれの虫のパーティーはじまりだ

城西小学校4年 北村 優空

入選 だいどころさんまを焼いていいにおい

城東小学校4年 ロイ 将人

【小学5年生・6年生】

特選 七夕や美しい空一番星

旭森小学校5年 小野 愛莉

(評) 「七夕」秋の季語の句。天の川をはさんで、牽牛星(ひこぼし)と織女星(おりひめ)が年に一度会うことのできる日。夜空を見ながら星祭りの日本の行事を楽しんでいる様子がうかがえる。美しい星空に一番星が流れ、偶然の出来事に心動かされ一句となった。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 つくしんぼ家族みたいにならんでる

高宮小学校5年 前川 瑞稀

(評) 「つくしんぼ」春の季語の句。春になると、野原や畦や土手にむらがつて咲いている。そのむらがつて咲いている景色を「家族みたいに」と比喻(ひゆ)かたたとえて表現すること)がうまく使えている。「つくしんぼ」という対象を身近に捉えることができる。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

特選 春の風ぎゅーっと私をだきしめる

城東小学校5年 松井 美羽

(評) 「春の風」春の季語の句。「ぎゅーっと」というオノマトペの表現がうまく使えている。春ののどかな季節に春らしい暖かい風に抱きしめられるという発想がすばらしい。「春の風」の穏やかなぬくもりをしっかりと受け止めて、対象である「春の風」そのものを体で感じているところがよい。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 卒業生みなのおいになみだする

佐和山小学校6年 佐々木 凜乃

(評) 「卒業生」春の季語の句。小学校の六年間の思い出は、それぞれの卒業生の胸に刻まれていて。クラスの中で体験した嬉しかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと、がんばったことなど、クラスメートの気持ちを聞けばより一層思い出が深まる。大きな節目の出来事がうまく詠めている。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 竹林で小さいたけのこ顔を出す

旭森小学校5年 金子 寧々

(評) 「たけのこ」夏の季語の句。「たけのこ」は食材になり、竹林も多いので身近なものとして詠みやすい。竹林の中で「たけのこ」の小さな頭を発見した作者の心の動きが伝わってくる。下五の「顔を出す」の表現がよい。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 ふくろうがふわふわとぶよかわいいな

高宮小学校5年 濱島 千佳

(評) 「ふくろう」冬の季語の句。自然環境が整ってなければ、出会うことができない鳥。ハリポッターの映画の中でも登場し、ユニバーサルスタジオや動物園に出かけると見ることはできる。「ふくろう」は、夜行性で飛ぶ時はほとんど音を立てない。「ふくろう」の飛ぶ姿がうまく詠めている。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 母と行く秋のおとずれ奥琵琶湖

城西小学校5年 堂野 順平

(評) 季語は秋。地名「奥琵琶湖」がうまく用いられている。琵琶湖は、全国の

俳人のあこがれの地でもあり、有名な芭蕉も「四方より花咲き入れて鳩の海」

(「鳩の海」は琵琶湖のこと)の句を詠んでいる。「秋のおとずれ」を「奥琵琶湖」に求めるところはまるで俳人のようである。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 すいかわりピカピカひかるみどりいろ

平田小学校5年 清水 大輔

(評) 「すいかわり」夏の季語。「すいか」も詠みやすい季語であるが、「すいか

わり」には、海水浴や海岸などで家族やグループなど多くの人が集まる中の景色が加わる。「すいかわり」に人々の笑い声や「すいか」を楽しく食べる様子も加わる。この句は、「すいかわり」の割られる前の「すいか」が詠まれている。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 どんぐりが秋風ふかれ前回り

鳥居本小学校5年 中川 琉杏

(評) 「どんぐり」秋の季語。クヌギやナラの木の下にたくさん落ちている「どん

ぐり」。時には通学路にも落ちてくる「どんぐり」の実を秋風が転がした。その景色の中での「どんぐり」が転がった様子を「前回り」と発見した点が良い。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 リフト乗り雪の結晶目にしみる

城南小学校6年 伊村 美玲

(評) 「雪」冬の季語の句。冬の季節にスキーを楽しむ人が体験する景色。スノ

ードスト、ダイヤモンドダストという現象を山へ向かうリフトに乗って体感している。寒さの中太陽が見せてくれる景色である。冬山と一体になっている感じがある。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 ひらひらとぼくのかたにもみじのる

城陽小学校6年 笠原 悠暉

(評) 「もみじ」秋の季語の句。偶然の出来事を一句にまとめて詠んだ歌。もみ

じの葉が木から離れて選んだ場所が「ぼくのかた」である。中七が中六となっていて、一文字足りないので、「ぼくの右かた」(ひらひらとぼくの右かたもみじのる)とすると十七文字におさまる。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

準特選 きのこにはおしやれなかさかぶってる

旭森小学校5年 上田 真羽

(評) 「きのこ」秋の季語。山林の湿地や木の根や朽木などに生え、種類も多く

毒のある「きのこ」は形や色があざやかである。秋になると道の駅に立ち寄ると、新鮮な「きのこ」や日常スーパーなどで見かけない「きのこ」に出会う。「かさ」に注目したところがよい。中六を中七にするとさらによかった。

(彦根文芸協会 赤木 和代)

俳句

佳作 クモたちがこの木ぼくのだけんかする
稲枝北小学校5年 川村 風生

佳作 かんろするもみじのつゆがかがやいて
佐和山小学校6年 前川 涼

佳作 風呂あがり団扇をもってまどのそば
金城小学校5年 宮川 あかり

佳作 見上げれば泳いでいるよいわしぐも
城西小学校5年 林 こころ

佳作 コオロギや夜にコロコロ鳴いている
城北小学校5年 高尾 優輝

佳作 夏の原少年たちの草野球
城南小学校5年 辻 四葉

佳作 赤りんご笑う妹思ひ出す
城南小学校5年 若林 由乃

佳作 持久走ライバルたちとあせながす
城北小学校5年 吉田 葉乃

佳作 静岡の大富士かぶる雪がさや
平田小学校5年 西浦 志瞳

佳作 いざよいにすこし欠けてもきれいな月
佐和山小学校5年 吉川 剛大

佳作 もみじの葉だれがいろぬりしているの
佐和山小学校5年 福原 叶夢

佳作 こたつはねねことみかんのひみつきち
平田小学校5年 小川 愛未

佳作 かたつむりのろのろあるく葉の上を
高宮小学校5年 中野 翔太

佳作 あかいろに目をかがやかせとぶとんぼ
佐和山小学校6年 河村 将希

俳句

佳作 紅葉狩り紅葉の道はどこまでも

城西小学校 6年

久保田 優兵

佳作 色づいた落葉は秋の宝物

城東小学校 5年

村川 咲綺

佳作 ゆきだるま雪どけ水とどけていく

城西小学校 5年

奥村 小姫

佳作 きれいだね秋のこうよう城下町

城西小学校 5年

清水 佑真

佳作 もみじ落ち木がさみしいと泣き出した

旭森小学校 5年

石原 桃花

佳作 スズムシがお月見しながら鳴いている

旭森小学校 5年

高野 羽月

入選 赤とんぼ夕日の下でおにごっこ

平田小学校 5年

吉川 桜空

入選 来年もひょうたん育てぐんぐんと

稲枝北小学校 5年

田中 蘭

入選 あさがおが大きくひらくうれしいな

稲枝北小学校 5年

西村 心汰

入選 あかとんぼゆうひにそまりかくれんぼ

佐和山小学校 5年

伊藤 駿也

入選 おち葉落ち小舟となりて池にまう

稲枝西小学校 5年

寺田 淳平

入選 紅葉(こうよう)の赤く染まった山の道

城東小学校 6年

近藤 綾香

入選 こうようは自分の色をいかしてる

城西小学校5年

中川 奈保

入選 月光に雲がそまるよ金色に

城東小学校5年

秋山 幸信

入選 赤とんぼゆうひにとんぼすきとおる

城陽小学校5年

菱田 由芽

入選 ゆつくりとすがたを変えるもみじの葉

稲枝北小学校5年

大西 桜愛

入選 サルスベリ風に乗って散っていく

稲枝北小学校5年

大西 遥斗

入選 夏の海きらきらきらと光ってる

稲枝北小学校5年

川村 咲希

入選 もみじにねそめられてるねこのみちが

城陽小学校5年

小南 香奈

入選 ほたる飛ぶ小さいけれどももし火だ

高宮小学校5年

田中 鳳斗

入選 秋晴れに真っ赤にそまる木の葉たち

高宮小学校5年

西村 宗大

入選 もみじの葉色とりどりとゆれにけり

高宮小学校5年

丸山 拓哉

入選 秋の木々もみじがまって落ちにけり

高宮小学校5年

伊藤 航輝

入選 秋探し木の葉が赤く染まってる

高宮小学校5年

田中 皆実

俳句

入選 ゆうやけはあかくやさしくつつみこむ
佐和山小学校6年 芦田 岬

入選 たれさがりきんにかがやくいなほかな
佐和山小学校6年 芝原 拓人

入選 橋わたりしたをのぞくともみじがわ
佐和山小学校6年 岡山 華音

入選 もみじまう月の光に照らされて
城西小学校6年 山村 珠未

入選 帰り道葉が色づいて実るかき
城東小学校6年 村元 彩花

入選 太陽にかざすと光る紅葉の葉
城東小学校6年 中野 愛美

入選 二期咲き桜ゆるりのんびり咲いている
城東小学校6年 宮元 麻衣

入選 赤とんぼ夕暮れの空を横切った
城陽小学校6年 中寫 毅琉

入選 大輪の花火で光る彦根城
高宮小学校6年 川端 智大

入選 雪を見ておもいで光る北海道
鳥居本小学校6年 工藤 愛子

入選 さわさわとすすきがたおれしゃべってる
旭森小学校5年 鈴木 恭悟

入選 松ぼっくりクリスマスツリーに大へんしん
城西小学校5年 古川 和愛

【中学生】

特選 鹿の群れ夕日に向かい立ちならぶ

南中学校 1年 赤井 亮映

(評) 奈良の鹿は古来、詩歌に詠まれて名高い。鹿の雄は美しく枝分かれした角

をもつ。冬の初め、牡鹿おしかの鳴き声は遠くで聞くと哀れあわを誘う。

夕日に向かい立ち並ぶ姿は勇壮ゆうそうである。そこに居合せた作者。沈みゆく夕日を惜しむかに字生されたことに拍手。写生のきいた一句。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

特選 ゆきだるまとけていくまで家族だよ

中央中学校 3年 東門 夢叶

(評) ゆきだるまは、古くは雪仏ともいった。家族みんなで作ったゆきだるま、

家の玄関でしっかり見守っている。しかし雪のこと、いつかは融とけてしまう。

作者は融とけてゆくまで家族の一員だという。なんとやさしい心の持主だろう。融とけてしまったゆきだるまも、いつまでも忘れない。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 京の街奥に入れば竹の春

南中学校 1年 前川 葉凜

(評) 竹は春のうちは筍を育てているので、親竹は黄葉して落ちる葉もある。秋

になると親竹も若竹も緑色が濃い。竹にとっては、暦の上での春が秋で、秋が春。京の街屋でよく見つけましたね。秋というのに青々としたところに気付いた作者。観察力がすぐれている一句。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 金色の稲穂大波小波かな

南中学校 1年 岸本 薫

(評) 日本人の主食であるお米は全国に植えられている。黄金色に育った一望の

稲田を見るのは快い、そこに着眼点をおいた作者。そこに風が通りすぎると「大きい波」「小さい波」が走っているのに気付くことに成功。省略のきいた一句に仕上げた。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 部活動汗かきながらはげむ日々

南中学校 1年 田中 佳凜

(評) 部活動は大変だ。朝練といい、放課後もまた、日の沈むまでの練習は大変。

夜は夜で勉強、全く地獄だね。作者も汗かきながらやっているんだ。無駄な努力というものはない。いつかきつと実を結ぶことがある。作者の次の作品を楽しみにしている。何事も努力である。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 自転車こうようで紅葉の下走りぬけ

南中学校 1年 古川 麻依

(評) 通学の途中か行楽か判らないが、自転車で紅葉の下を走りぬけたという作者。紅葉狩りなんてする時間もなく、気分転換のために走って頭を休めたのかも知れない。素直に形よくまとめられた一句だと思う。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 帰り道紅葉もみじを見るため遠回り

南中学校 2年 赤田 理歩

(評) ゆっくりと紅葉狩など暇のない作者。少し廻り道になるかも知れないが、あるところの紅葉を知っている作者。遠回りになるかも知れないが行って見る気にさせた所。友達とおしゃべりしての遠回りもまた楽しいものである。楽しい一句が出来ましたね。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 マフラーをぐるぐるまいて登校し

稲枝中学校 3年 谷 夏海

(評) 最近の色とりどりのマフラーが出廻っている。登校の時間帯はとても寒い。「マフラーをぐるぐるまいて」と上手に表現している。さりげなく言っているが、奥深く、色々想像させる一句。上手に表現されたことに拍手。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 音響く家族みんなでもちつきだ

稲枝中学校 3年 西田 ほのか

(評) 音響くと言うからは、普通りの臼と杵である。餅搗の日は大忙し、お父さんもお母さんも分担があり、子供達も餅を丸める大仕事。その日の様子が手にとるように(目に)映ります。心一つに搗いた餅でお正月を迎える、平和なご一家の様子。お正月にはお餅を幾つ食べたかな。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 帰り道買った焼き芋半分こ

中央中学校 3年 初村 瑠夏

(評) 帰り道と言っているのでどこからの帰途かははっきりしないが、とにかく買った焼き芋を半分こしたという。友人かきようだい、それとも好きな人、色々想像させる一句。ほほえましい句に仕上げましたね。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

準特選 秋晴れにぼつんとひとつ昼の月

西中学校 3年 宮村 新奈

(評) 秋晴の空は美しい。なんとなく見上げた作者。何も無い空に月がひとつと残されているのに気付いた作者。しかもそれを一句にまとめあげたこと、もう俳人ですね。

(彦根文芸協会 野瀬 章子)

俳句

佳作	まつさおな空に浮かんだいわし雲	南中学校1年	池元	駿
佳作	アキアカネ空に向かってとんでいく	南中学校1年	小林	来生
佳作	七輪で家族いっしょにさんま焼く	南中学校1年	小林	莉緒
佳作	彼岸花真っ赤に染まる川沿か	南中学校	匿名	名
佳作	迎火に家族みんながそろうかな	南中学校1年	前川	栞凜
佳作	金木犀学校帰りにおいけり	南中学校1年	塩田	芽生
佳作	通学路赤く染めゆくもみじかな	南中学校1年	近藤	蒼
佳作	ゆうやけにまっかにそまるかえりみち	南中学校1年	末光	琴乃
佳作	蟋蟀の鳴声高く響きたる	南中学校2年	角田	英謙
佳作	秋晴れの空を見ながらランニング	南中学校2年	田中	柁廣
佳作	家の庭風が吹くたび落ち葉舞う	南中学校2年	金子	拓未
佳作	秋風にふかれ草木のはなす声	南中学校2年	八木	愁人
佳作	風が吹くひとときだけの涼しさよ	西中学校2年	西田	翼
佳作	公園の上にひろがる翹雲	西中学校2年	西田	真大

俳句

佳作 赤とんぼ夕日の中にとけてゆく

西中学校2年

鈴木 亮輝

佳作 マフラーの恋しい季節がやってきた

西中学校2年

岡本 幸

佳作 雪が降り白き城をより白く

中央中学校3年

大内 和花

佳作 いわし雲歩く足元影長し

中央中学校3年

松永 恭典

佳作 帰り道香りが誘う金木犀

中央中学校3年

杉本 智咲

佳作 夕焼けにカラスの群れが帰ってく

中央中学校3年

梶木 将真

入選 雪だるま動き出したらしいのにな

鳥居本中学校1年

安達 大河

入選 うたってるからだをゆらしコスモスが

南中学校1年

小倉 美梨花

入選 紅葉見て夕日と同じ茜色

南中学校1年

市場 華穂

入選 きのみきにはえているのは毒きのこ

南中学校1年

西村 渚海

入選 青空にタカがするどく飛んでゆく

南中学校1年

北川 聖

入選 さびしいな夕日にむかいアカトンボ

南中学校1年

辻 乃耶

入選 こうじんのまつかなもみじみにいこう

南中学校 1年 村田 巧輝

入選 ひまわりが太陽目がけて伸びてゆく

南中学校 1年 疋田 愛里

入選 散りだしたイチヨウの葉がヒラヒラと

南中学校 2年 井川 司

入選 あかあかとストーブの火が上がってる

南中学校 2年 深尾 優太

入選 京の町秋の夕暮れ染まる空

南中学校 2年 山田 夢翔

入選 名月のあかりが照らす彦根城

南中学校 2年 八木 愁人

入選 天守閣月に照らされ光ってる

西中学校 2年 北川 星羅

入選 おでんの底肉きんちやくがおいしそう

西中学校 2年 門田 尚弥

入選 彦根城秋の色にそまってく

西中学校 2年 高橋 千尋

入選 もうそろそろマフラー似合う季節かな

西中学校 2年 中山 真稀

入選 おいしいねみんなでたいた栗ごはん

稲枝中学校 3年 若林 瑠里弥

入選 くさしげるはやしのなかをたんけんだ

稲枝中学校 3年 柴田 潤隆

俳句

入選

流れ星田舎の空でかがやいた

稲枝中学校3年

磯

和徳

入選

敗戦忌とかが経とうと癒えぬ傷

稲枝中学校3年

塚本

義基

入選

ふゆのよるみあげてみるとほしだらけ

中央中学校3年

内堀

紗妃

入選

移りゆく星座を見つめ冬感ず

中央中学校3年

寺澤

穂乃佳

入選

オリオンが寒さに負けず輝く夜

中央中学校3年

小野

優実

入選

新雪をわれよわれよと跡^{あと}つける

中央中学校3年

濱川

涼平

入選

湖に春の訪れ見つけたり

中央中学校3年

川崎

乃衣瑠

入選

スズムシや耳をすませばほらそこに

鳥居本中学校3年

小椋

陽奈

入選

青空に見わたすかぎり赤とんぼ

南中学校

匿名

名

入選

灯籠の川に流るる夜の闇

西中学校3年

中村

瑠樹

入選

コスモスの多き草原色ゆたか

南中学校1年

山村

郁史

入選

彦根城雪がつもれば雪の城

西中学校3年

築地原

ソフィヤ

【総評】

五千四百余句のご応募を戴きましたことを大変嬉しく、これも偏にご協力下さいました学校各位、並びに先生方のご指導の賜と思っております。

俳句はご承知の通り、有季定型ですので、季語（季題）の無い句は取る事が出来ません。

ですが、小学校の部では、同じフレーズの句や、季語の入っていない句がたくさんあり、とても残念に思いました。又、学年に応じた漢字を使うことも大切ですし、漢字が句のイメージをたかめてくれることも多々あります。

小学生、中学生とそれぞれの詠み方がありますが、日常生活に俳句を取り入れて、学校生活や行事、部活動等を句に表現してみてください。沢山作って、また来年も、すばらしい句を発表して下さいのを、期待しております。

（彦根文芸協会 北川 栄子）

